



# 広島女学院同窓会 東京支部ニュース

編集・発行 東京支部役員会

2014. 06. 01

第 63 号

今年度の聖句

あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯。 詩篇 119 編 105 節

## 主の導きにお従いして

広島女学院大学 学長 湊 晶子

この度、広島女学院の一員に加えさせていただき大変光栄に存じております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今静かに 81 年の人生を振り返ってみます時、「人生とは白地図に地図を書く作業」に似ていると思います。三人の子供を育てながら息つく暇なく仕事をし、「受験生がいない年」に夫婦で旅行をしようと楽しみにしていた矢先、夫は脳出血で突然 44 歳の若さで天に帰ってしまいました。

定年退職後、ハーバード大学から客員研究員に招かれ執筆生活をスタートさせた矢先に東京女子大学の学長に選挙され帰国、70 歳で就任し 2 期 8 年勤め、また新しい地図が出来ました。そうして退職と同時に国際 NGO ワールド・ビジョンのアジア代表国際理事に選出され、途上国の教育に専念しておりました時に、突然学長就任のお話をいただいたのです。

さすが今回はお受けすべきかどうか大変悩みました。女学校一年生の 1945 年千葉大空襲で防空壕から掘り出され九死に一生を得た「いのち」、広島で「平和とキリスト教女子教育」のために捧げるべく示されお引き受けした次第です。

広島女学院と東京女子大学は明治初期に「女子教育の必要性に目覚めた日本人クリスチャン男性」によって創設された点で共通しています。広島女学院(1886 年)は砂本貞吉によって、東京女子大学(1918 年)は新渡戸稲造によって創設されました。日本において女性が男性と同等に教育を受けることが出来なかった時代に、「女性も神の前に同等な人格である」

との理念に立って、女子教育に心を注いで下さった日本人男性教育者が居られたことは女性にとって大きな励みです。

にもかかわらず、広島女学院において

は砂本貞吉からバトンを渡されたゲーンズが、東京女子大学においては新渡戸稲造からバトンを引き継いだ安井てつがより知られていて、砂本貞吉、新渡戸稲造の影が薄いことに気付きました。東京女子大学学長時代に新渡戸稲造記念室をオープンし、広島女学院では就任してまだ日が浅いのですが学長室に砂本貞吉の写真を資料室からいただいてゲーンズの横に飾りました。

女性の政治的権利も認められていなかった時代に、「男性と女性の平等性」を困難を乗り越えて熱く主張して下さった男性が居られたのに、女性進出が求められる今、「女性としての責任」を果たさないでいいのかとの問いが脳裏をよぎり、年齢を度外視して重責を受ける決心をした次第です。これからの 4 年間、任務を全うできますようにお祈りに覚えていただければ幸いです。



# 全国代表者会議 報告

4月25日(金)、ゲーンズホールのチャペルで開催された同窓会全国代表者会議に、関東ブロック代表として東京支部長 坂下 恵(杉田/文英1)と神奈川支部長 徳久 碧(田丸/高校24)が出席しました。



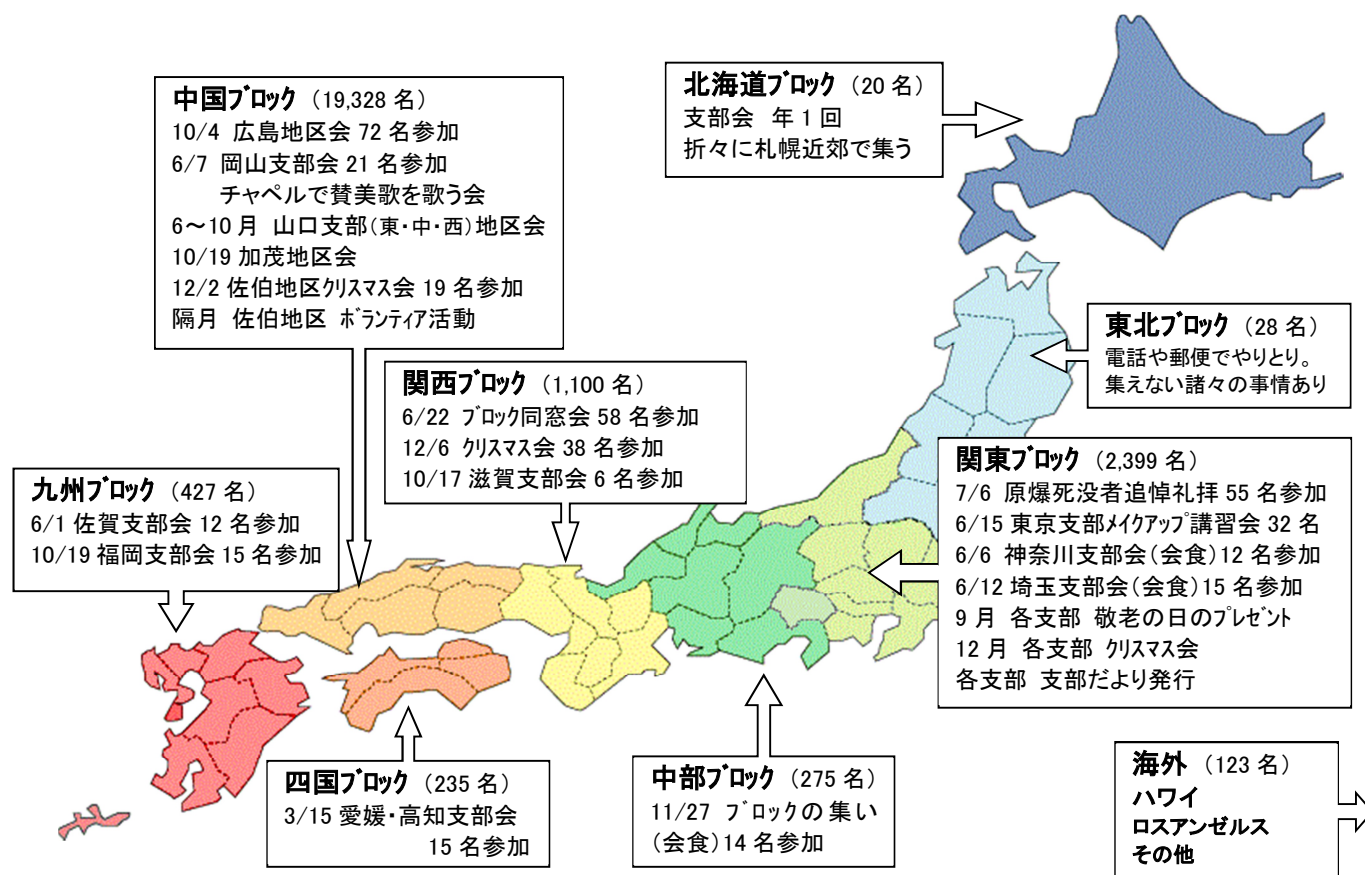
礼拝では、小田部三恵子先生の「歴史の今を生きる」と題するメッセージで、「神からの賜物を活かすため、必ず道を開いてくださると信じて希望を捨てずに生きれば、その人の生きざまを通して神は働いて下さる」と教えていただきました。



昨年度の報告と今年度の計画が承認された後、各ブロックの活動報告があり、同窓会は「困った時に帰れる場所」でありたいと話しました。



## 各ブロック昨年度の活動





## ホームカミングデー

翌4月26日(土)には、リーガロイヤルホテルでホームカミングデーが、開催されました。今年のテーマは、“よりそう愛”。クワイヤアイリスの歌う「同窓生の歌～どんなに時が流れても」で始まりました。



星野晴夫先生の司式による音楽礼拝では、齋藤愛さん(バイオリン/高校53)、辰本亜由美さん(ピアノ/高校57)らによって杉江慶子さん(高校36)作曲の素敵な曲が演奏されました。



メッセージは染色作家の天谷理彩さん(高校36)から。「あなたのパンを水の上になげよ」という題で女学院で神様の底知れない愛を知り人生が

変わった体験をカラフルな作品の前で語られました。湊晶子新学長からは「キリスト教に立脚した女子教育のリベラルアーツを推し進めようではありませんか」と力強いご挨拶を頂きました。ご来賓紹介の際には、長尾ひろみ前学長に大きな花束が贈呈されました。

講演では、コンサルタントとして活躍の傍ら、ベストセラー「ある奴隷少女に起こった出来事」を翻訳された堀越ゆきさん(高校43)から、「私の人生を変えた他人」と題してお話を伺いました。



その後、チャプレンの澤村雅史先生の食前の祈りと



黒瀬真一郎理事長・院長の乾杯で会食に移りましたが、終始、ステージのバックに女学院の歴史や浜井洋子さん(高校14)撮影の写真が次々と映し

出され、素敵な演出でした。

校歌斉唱の後、深山嘉代子実行委員長(高校14、短大13)の挨拶をもってお開きとなりました。今年も約300名の参加でした。(坂下)



2013年度の東京支部年会費の納入、  
ありがとうございました。

**2014年度の東京支部年会費  
(2000円)の納入をお願いいたします**

東京支部の年度は4月から翌年3月までです。

封筒の宛名シールに「\*」印が付いている方は今年度の会費を納入済みです。手違いで振替用紙が入っていた場合はご容赦ください。

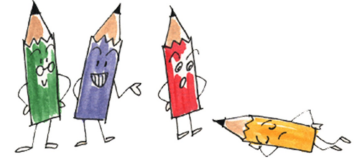
80歳以上の方は会費免除ですがお気持ちがありましたら、よろしくお願い致します。

**同封の郵便振替用紙の他に  
銀行振込もご利用いただけます！**

三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店  
普通預金 0473771  
広島女学院同窓会 東京支部

振り込みの際、  
お名前の後に電話番号を入れてください！

～三菱東京UFJ銀行の  
キャッシュカードをお持ちの方へ～  
提携コンビニATMでの  
平日日中の振込手数料が  
有料(108円)になりました



## ミャンマーに魅せられて

清水富士子（桐木／高 14・大英 14）

皆様はミャンマーについてどんなイメージや知識をお持ちでしょうか？ アウン・サン・スーチーさんの国？ かつて軍事政権で今は民主化が進み、日本始め西洋諸国がビジネスチャンス求めて殺到している国？ しかしそれ以上のことはなかなか見聞きすることの少ない国ですね。

私は写真を撮ることを趣味としており、主にアジアの風景や人々に関心があって、東南アジア各地をよく旅行します。まだあまり人の行かない珍しいところに行きたくて初めてミャンマーを訪れたのは 2006 年のことでした。

当時は軍事政権のただ中で、外国文化の流入は制限され、人々は軍と警察の厳しい監視下で不自由な生活を強いられていました。一般市民は携帯電話を持つことが許されず、我々観光客も携帯電話は入国のときに預けねばなりません。石油や宝石など天然資源が豊富な国ですから、富を上手に還流させれば国民全体が豊かになれるはずですが、どうやら富はごく一部の階層にだけ流れているらしく、国民の大多数は極貧といってよいほどの生活を強いられていました。それでも人々は仏教を篤く信じ、おだやかでやさしく、自然は美しく、私は一度でこの国が大好きになりました。

旅の途中で出会ったのが古庄重生さんです。彼は現地の旅行会社の顧問やみやげものの店の経営をしながら、貧しいために学校に行けない子供たちのために無料で通える学校を建てようとしていました。70 歳までに 10 校建てるのが夢だと熱く語ってくれたものです。

私が二度目にミャンマーを訪れたのは翌 2007 年です。丁度この頃、民主化を求める運動が国中にわき起こり、各地で僧侶たちのデモが広がっていました。政府は武力による

弾圧に乗り出し、国中が騒然としていました。日本人ジャーナリストの長井さんが軍隊の発砲で殺されたのもこのときです。首都ヤンゴンには夜間外出禁止令が出されたため、私達は地方の撮影が終わるとそのまま隣国タイへのがれました。そのため古庄さんに会う約束をしながらこのときは果たせませんでした。

それからのミャンマーは突然国際社会の表舞台に躍り出た格好で、日本でも度々ニュースに取り上げられるようになりました。軍事政権が倒れ、アウン・サン・スーチーさんの軟禁が解かれたのは皆様もよくご存知の通りです。

古庄さんとはメールのやりとりを継続して、その後の学校建設の様子も知らされていました。それをなんとかお手伝いしたいと思いながら時間が経ち、三度目の訪問をしたのは 2012 年のことです。ミャンマーがどのように変わったのか、また古庄さんの学校建設はどの程度進んでいるのか、興味







津々でした。

2012 年のヤンゴンの町にはスマホと携帯があふれており、大変な活気を見せていました。しかしほんの少しヤンゴンから車で離れると、農村は以前と同じ、電気

も水道も来ておらず、住民はやしの葉や竹で作った粗末な掘立小屋に住んでいます。実際サイクロンが来ると簡単に吹き飛んでしまいます。古庄さんはそのような時には村人の避難場所にもなるようにと、しっかりしたコンクリート製の学校を建てています。



私は古庄さんの案内でテンゴン村の学校を訪ねました。私達の車が国道に着くと、子供たちが迎えに来てくれていました。そこからせまいあぜ道を 10 分くらい歩いたところに学校があります。ひどいでこぼこ道を、子供たちは私の両側から手を取ってころばないようにいたわりながら進んでくれます。がらんとした広い教室で、子供たちは学年別にあちこちテーブルを囲んで勉強しています。私は日本の歌を教えてあげたいと思い、用意した「大きな栗の木の下で」を何度も一緒に練習しました。子供たちのきらきら輝く目、はじけるよう

な笑顔、それは日本の都会の子供たちにはあまり見られなくなった、生き生きとした子供らしい表情でした。私達はまた日本から持って行った子供服や、ヤンゴンで調達した文房具などを配ってあげました。ついでながら古庄さんによると、それ以来、彼が日本人の支援者たちを学校に案内すると、子供たちが「大きな栗の木の下で」を歌って迎えてくれて、それが日本からの訪問者たちを大変感動させているとのことでした。



2014 年現在、古庄さんが建てた学校は 6 校になりました。そしてさらに 2 校が間もなく完成し、開校式を迎えます。また新たに 1 校が 10 月から工事着工です。今の私にできることは、子供服の古着を集めて送ること、また学校運営に必要なコストのため寄付をつのることです。日本の古着は質がよいので現地では大変喜ばれます。皆様のお子さんが成長して着られなくなった服で、小学校 1 年生から 6 年生くらいまでのサイズで、夏服がベストですが、生地が薄いものであれば長袖も OK です。

おとしのクリスマス会でご紹介いただいてから、同窓生の皆様から子供服や寄付が続々と寄せられ、感謝に堪えません。学校が増えれば子供たちの数も増え、必要な服や文房具もますます増えます。これからもご協力を何卒よろしくお願いいたします。

(問い合わせ：清水 Tel/Fax 03-3600-3012)

同窓生の専門家による講座 第3回

## 「心を伝える合唱講座」

日 程：2014 年 7 月 12 日（土）午後 1 時～3 時

会 場：銀座教会 福音会センター 会議室（B1）

中央区銀座 4 丁目 2-1

JR 有楽町駅 中央口下車 徒歩 5 分、東京メトロ銀座駅 C7 出口正面

指導者：石原恵子さん（大津賀／高 18）

参加費：1,000 円

申込み・問合せ：TEL/FAX：03-5386-0740（坂下）



同窓会活動で継続することで活性化に繋がるもの  
をと検討していた時に石原さんのエネルギッシュ  
で楽しい合唱指導を拝見して、是非ご指導をお願い  
したいと思いました。

合唱経験のある方、歌うことのお好きな方、歌え  
ようになりたい方、お友達を作りたい方等々、  
どうぞお気軽にご参加下さい。

この講座は関東ブロックの合唱サークルとして継  
続して行きたいと考えていますが、練習日程、会  
場などは今後ご相談して行きます。今回は不参加  
でも今後の練習の案内をご希望される方もご連絡  
ください。お待ちしております。（坂下）

### ＜石原恵子さんからのメッセージ＞

「創立 27 年になる女声合唱団と、幼児からシニアまで幅広い年代の方々のピアノと歌のご指導をしています。今回、このような企画で女学院同窓生と一緒できることは、神様からのプレゼントと感じています。詩とハーモニーの美しい曲を全身を使って歌い、音を楽しむ事、そして表現する喜びを体感して頂きたいと思います。心に響く詩、リズムカルな曲など、ジャンルにとらわれず、何が出て来るかお楽しみ。一緒に美しい響きを創り出しませんか。一人でも多くの皆さんとの出会いを楽しみにしています。」



### ＜プロフィール＞

国立音大卒業後、ピアノ伴奏、歌でテレビ、ラジオに 5 年にわたり出演。遠藤三郎著「生涯学習ピアノのすすめ—大人のためのピアノ・レッスン」（1992 年／春秋社）に寄稿。幼児から大人のための石原音楽教室主宰（白金教室、世田谷教室）、全日本ピアノ指導者協会会員、メロウデイ女声合唱団指揮者、ヤマハ F C 会員



## 2013 東京支部クリスマス会報告

12月14日(土)、日本ホーリネス教団池の上キリスト教会をお借りしてクリスマス会を持ちました。



JR 中央線武蔵境駅からバスで3分のところにある池の上教会は、東京支部宗教委員の千代崎満子さんがご夫妻で牧師として奉仕をなさっている教会です。

礼拝では千代崎備道牧師からマタイによる福音書1章18節～25節により「インマヌエルの誕生」と題した説教を頂き、「インマヌエルとは、神は私達とともにおられるという意味。どんな時も神様は私達と一緒にいて下さる。それを忘れなければ、私達の内にもキリストが来て下さる。それがクリスマスである」と優しく教えて頂きました。



奏楽は池の上教会の主任オルガニスト内海恵子さんの長女の彩花さん。高校3年生とは思えない素晴らしい演奏でしたが、千代崎さんから、「広島女学院大学の新学長に決まった湊晶子先生のお孫さんです」と紹介され、一同、突然の報告とその不思議な御縁に驚く一幕もありました。



後半は、いつもの呉市の合歓のバターケーキを頂きながらグループ別に自己紹介をして頂き、讃美歌をたくさん歌って楽しいひとときを過ごし、校歌でお開きとしました。

参加者は、高校12(大英12)回から高校46回卒まで、30名でした。



池の上教会は設備の整った素晴らしい教会で、好評でしたので、今年のクリスマス会でもお借りすることにしました。この度はいらっしやれなかった方も次回は是非ご参加ください。(坂下)

### 湊晶子先生の著書「女性を生きる」再販！ ～「広島女学院大学学長」の肩書と「重版に際して」という文章を加えて～

「重版に際して」より：2015年に原爆70年を迎えるにあたって、広島から「平和と女子教育」を発信する使命をもって赴任しましたところ、すぐに紀伊国屋書店の高木昌史社長を介して角川書店で『女性を生きる』を再販してくださるとの喜ばしいお知らせをいただきました。

「核の惨禍の無い世界を創り出す女性」「世界が直面する課題を理解し平和に貢献する女性」の育成に残る生涯を捧げたいと願っています。戦前、戦中、戦後を生きて来た私のささやかな80余年の人生が、これからの世界を築いてくださる女性たちの参考になれば幸いです。

## 「半年分の吟行記」

白井京子（現・瀧口）高23、文英5

俳句の楽しみは、句会と吟行。泥縄の人生というか、アドリブ好きな私にとつて、前もって準備しなくていい吟行は、その場に行つてそこで作るの、準備も要らず気軽に楽しい。時間までに俳句が出来なかつたらどうしようかと心配なので吟行は好きじゃないと言う人もいる。そういう人は、前の日までに行く場所のことをあらかじめ調べて、大体の想像で家で作つていくそう。人それぞれで、それもまた楽しい。

今年の初句座は東京港区芝にある愛宕山だった。愛宕山の男坂の石段を馬で駆け上がり梅の花を手折つて將軍家光らの賞賛を博したという馬術の達人、曲垣平九郎に因み、午年ということ出かけた。

## 門松や芝の愛宕の山の下

白井薔薇

一月末には、宮崎県美郷町「百済の里」の奇祭、「師走祭り」に出かけた。西暦六百六十年、古代朝鮮百済が滅び、多くの渡来人が日本をめざし、中には九州を目指した王族の親子もいた。父王と王子は宮崎内のかなり離れた神社に祀られたが、それから千余年、旧暦の師走に王子のご神体が父王を訪ねるという祭りが続いていた。かつては徒歩で往復九泊十日、今は車も使い二泊三日、禊や神楽など三十一の神事を行う。一日目、ご神体を担ぐ白装束の行列に付いていくと、川に男たちが飛び込み、寒禊。日が落ちると、三十基のトンどのような「櫓」に一斉に火が放たれ、その業火の中をご神体が進む

## 狩の犬ご神体にぞほえかかり

## 火付け方徐々に近づきどんど焼き

次の日は、夜神楽。最終日は、境内にて誰彼構わず顔に墨を塗る「ヘグロ塗り」。そして、やがて別れのときが来た。何故か、箆や鍋の蓋、杓子を振る氏子たちの前をご神体を通り過ぎて行く。見送る方も去っていく一行も、「おさらば」と声を揃える。一行が小さな点になって見えなくなるまで、「おさらば」「おさらば」と繰り返す。じいんと胸が熱くなる。朝鮮語の「サラムハ」（愛しています）からきているという説もある。

## おさらばと声掛け合ふて祭り果つ

二月、バードウォッチングにぴったりの洗足池で、洗足池句会を立ち上げた。海舟の墓に会いひし梅見かな

三月、神奈川県、橋本にある相原高校はいつもの吟行場所

春雨に乳張る牛のよだれかな

四月、愛知県蒲郡、数々の小説の舞台となつた蒲郡竹島は、まさに春満開の季節だらけ。干潟、磯遊び、春潮、潮干狩り、鳥帰る・・・

潮騒に春の眠りを赤子かな

たずぬれば昨夜遅くに鳥帰る

春潮の轟々と寄す小さき湾

私の所属する俳句結社「童子」の三月号で初めて巻頭をいただいた。全国六百人、三千句の中から選ばれたのは本当に嬉しい。

キリストの道を説きをり歳の市

薔薇

辻桃子主宰による鑑賞

歳の市では正月に必要な物を何でも売っている。

今月の投句を見ても、

歳の市の高級蓐安はうき

薔薇

朝市や京の大根に京のねぎ

三四郎

年用意まづは秋田の酒買うて

門九

新巻の縄に鱗の光りけり

信

暮市の半身べたりと赤き鯛

喜々

など。そんなごった返す買物の人々に関りなく、傍らでは、「キリストの道」を一心に説く人もいる。これぞ、一年の縮図の歳の市だ。

仕事のことは忘れて、一人の俳人となって、景色や自然の中に身をおき、俳句を作るとき、私の大好きなひと時だ。

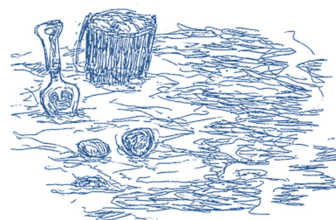
皆様からの投句をお待ちしています。

## 俳号

白井薔薇

俳句結社「童子」同人、日本伝統俳句協会会員

BSジャパン「サブちゃんと歌仲間」に出演中





## 2013年度 広島女学院同窓会東京支部 会計報告

2013年4月1日～2014年3月31日

| 収 入    |           |     | 支 出       |           |              |
|--------|-----------|-----|-----------|-----------|--------------|
| 費 目    | 金 額       | 摘 要 | 費 目       | 金 額       | 摘 要          |
| 前年度繰越金 | 381,552   |     | 支部ニュース費   | 359,776   | 印刷代、送料、封筒代   |
| 支部会費   | 626,000   |     | 役員会費      | 87,750    | 役員会会場費、交通費他  |
| 受取利息   | 79        |     | 支部活動費     | 28,137    | メグ講習会、クリスマス会 |
| 寄付     | 22,000    |     | 通信事務費     | 52,220    | 支部ニュース費以外    |
|        |           |     | 関東ブロック分担金 | 31,061    | 夏雲の集い        |
|        |           |     | 次年度繰越金    | 470,687   |              |
| 合計     | 1,029,631 |     | 合計        | 1,029,631 |              |

上記の通り会計報告をいたします。

2014年3月31日 会計 滋野 順子 

監査の結果、収支報告に相違ありません。

2014年4月2日 会計監査 小池 明子 



東京支部は4月から2014年度に切り替わりました。  
新年度の役員です。よろしくお願いします。

藤井幸子さん、宗教委員を長く務めて頂きまして有難うございました。

| 2014年度 東京支部役員 |                      |
|---------------|----------------------|
| 支部長・編集委員      | 坂下 恵 (杉田) 文英1        |
| 副支部長・会計       | 滋野 順子 (前埜) 高19       |
| 副支部長・書記       | 瀧口 京子 (白井) 高23、文英5   |
| 宗教委員          | 千代崎 満子 (白根) 高33、文英15 |
| 役 員           | 鈴木 章子 (岩田) 高19、文英1   |
| 〃             | 西山 朋子 (佐々木) 高22、文英4  |
| 〃             | 佐藤 美代子 (池田) 高22、文日4  |
| 〃             | 桜井 悦子 (瀬川) 高23、文英5   |
| 〃             | 藤居 阿紀子 (森) 高25       |
| 〃             | 小林 悦子 (土生) 高46       |
| 〃             | 平田 香里 (高原) 高47       |
| 会計監査          | 小池 明子 (田辺) 高14       |
| 顧 問           | 高井 浩子 (高橋) 高14、大英14  |

役員会は原則として毎月1回(第2火曜日・10時～12時)、  
銀座教会で和気藹々とした集いを持っています。  
同窓会のことを一緒に考えて頂ける方、ご連絡お待ちしております。

### 今年度の企画

- \* 支部ニュース発行 (第63、64号)
- \* 夏雲の集い (7/4・銀座教会)
- \* 心を伝える合唱講座 (7/12)
- \* クリスマス会 (12月)



# 2014 夏雲の集い

関東ブロック主催

～ 原爆死没者追悼礼拝 ～

2014 年 7 月 4 日（金）13:30～16:00

日本基督教団 銀座教会 大礼拝堂

中央区銀座4丁目2-1

JR 有楽町駅 中央口下車 徒歩 5 分、東京メトロ銀座駅 C7 出口正面

礼拝・説教：銀座教会 伊藤大輔牧師

関東ブロックでは、母校での 350 名の犠牲を追悼し平和に向き合う集会として、故山本知子先生の提唱による「夏雲の集い」を 1988 年から毎年開催してきました。今年も銀座教会をお借りして行います。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

## <茶話会>

5階“ぶどう”にて

今年も「アオギリの木の下で」を皆で歌いましょう！YouTube で聴いて下さい。  
久しぶりのおしゃべりもお楽しみに！

## みんなの広場

～振替用紙の通信欄・お便りから～

高等女学部 4 年生の時、創立 50 周年を迎え聖劇をいたしました。同窓生とは会えませんが、日曜日には礼拝に出席しています。 城山幸子(高女 45)

敬老の日に美しいカードをありがとうございます。  
老化防止で女学院聖歌隊の経験を基礎に合唱団で歌っています。 八木イブキ(湯浅・大英 1)

皆様のご尽力のお陰により同窓会もあり、心の「やすが」としております。 野辺英子(藤原・高女 52 回)

支部ニュースは充実し、魅力的な行事企画と楽しく拝見させて頂きました。皆様の努力の様子が伝わり、感謝いたします。 佐々木典子(桑田・高 9、短 8)

50 年以上連続の同期会！最近メンバーが決まっていたのですが、地方からの参加が増えてきました。  
女学院独特の香りに幸せいっぱいの方が過ぎます。  
皆様のお世話に感謝です。 大之木都茂美(高 6)

東京に住んで 25 年になります。子供が大学生になり気持ちに余裕が出来ましたので、支部の集まりにも参加したいと思います。 松岡理乃(木沢・高 30)

## 編集後記

\* 高校 19 回、文英 1 回、文日 1 回の同期会を 7/4(金)の夏雲の集い終了後 17 時半から銀座で行います。

声をかけあって集まりましょう！ 申込み、問合せは、滋野(前埜)さんまで。(TEL/FAX 03-6760-6322)

\* 夏雲の集い(7/4) と 合唱講座(7/12)、銀座教会でお会いしましょう！ スペシャルゲストも？

\* 一人ひとりの年会費(2,000 円)の振込が東京支部の活動のエネルギーになります。ご協力をお願いします。

\* 同窓会活動についてのご要望、近況報告、投句等々、振替用紙の通信欄等を使ってお寄せ下さい。